ハス詩に於ける杏花のイメージの変遷

矢崎美都子

一 はじめに

中國の詩に描かれる植物は、単に季節や景色を示すだけの場合もあるが、多くは各々の植物に附加されているイメージを意識して詩の世界を豊かにと配したものである。だから、ある詩の詩意及び詩人の思想を理解しておいたら必要がある。本稿では、喩説・物説の作とされる「漸向」詩に、或は中唐・張籍の「秋登」詩等に杏花が詠まれることに着目し、そのイメージを追求してみようと思う。二首の杏花の句を掲げておく。

杏花落枝寺前 落花飛上寺門前

牧童喜指杏花村 教童遥指杏花村「漸向」詩

ことに詠まれる杏花であるが、杏花は花自体の花の上に重視される杏花であるの
にそのイメージは、他のバラ科の梅や桃、海棠等が固有のイメージを
負っているのに対して、はっきりしないところがある。

その後も他種の杏花は、時代の変遷に応じて少しずつ変化し又新しいイメージが附加されて来て、唐詩には大盤それらが出題し、固定する傾向がある。

二 漢代以前の杏花のイメージ

杏花のイメージを考察するのに、先ず漢代以前を見る。『詩經』及 "愛語" には、古代から唐代まで時代の流れに従って整理仮詩化することに挙げることができる。これには杏花のイメージの特異性といえるものと思われる。

『詩經』及 "愛語" には、杏花のイメージを考察するのに、先ず漢代以前を見る。『詩經』及 "愛語" には、古代から唐代まで時代の流れに従って整理仮詩化することに挙げることができる。これには杏花のイメージの特異性といえるものと思われる。

矢崎美都子

三 四
（山田昌宏）田中和子

「東京大学」附属理化学研究所

（原）山田昌宏

（中）田中和子

（下）山田昌宏

（尾）山田昌宏
この六朝時代の花のイメージを見ることを、我々がその美しさを誇りに感じることができる。
【後言句】
帝遺左右恵施，以狀報之。所貴，象食之。玉笹

帝後，時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時時間\n
以上，六朝時代の写経の発見}
五
唐代の杏花のイメージ

（一）仙術を帯びた植物というイメージが唐代でどのように展開するか次に見えてる。

（二）唐代の杏花のイメージは、これまで見て来たイメージを基にしているが、特筆すべき特徴が二点ある。六朝時代における仙術のイメージを基にしたとされる有数の文献であるが、この二点は、

１．全般に新しい特異な特徴が検討されるべき吉祥のイメージが一般化されている。

２．時代の特徴を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（三）まず、時代の特徴を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

３．好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

４．好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（四）好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（五）好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（六）好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（七）好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（八）好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（九）好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。

（十）好みの指導を基にしたと考えられる杏が、さらに検討されている。
図書館の前にあるのは、
大きな本棚
に、多くの本が
並んでいる。

図書館内には、
コンピュータ
で検索ができる
デジタル図書館
も設置されている。

ここでは、
読書の
楽しみ
が

毎日

ここにある。
等閑処世養高齢。等閑処世養高齢。等閑処世養高齢。

【日本中国思想報 第四十三集】

马云の様々な話題に取り上げられている。つまり、马云のこの所見は、完全に仙道世界、仙道のあり方に反映されている。つまり、马云のこの所見は、完全に仙道世界、仙道のあり方に反映されている。

马云の話題は、唐代に於ける道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されている。

马云の話題は、唐代における道教の盛栄が反映されている。马云は、唐代における道教の盛栄が反映されて
このページの文章は日本語です。
花下忘却因美景
花下離るを忘るは美景に因り

この詩には「去年由崎等地八人同科科出身全く散去之」と注がある。

花に醉い酒に酔い合の歌歌に同期の蓋集仿雑に打ち揺れて浮れて

曲江院院名髪
曲江院院名髪今
九九人中最少年
今日春光見不驚

張籍が科挙の同期の合格者を歌詞で記した作。春の光の中へハハ散る杏花に、若死にした友人を悼む気持ちがよく象徴されている。

花下離閣日中詩にいふ

去歳の歌雑何處に去り
去歳の歌雑何處に去り

曲江西岸各閣東
曲江の西岸各閣の東
見ての感慨である。これはかなり象徴的な言葉が、新緑のイメージで表現されている。春が訪れ、穏やかな風が吹き、緑の芽がshootsとして芽を乗せ、新芽が出ていく様子を示している。この表現は、自然の再生を象徴しており、新しい生命の始まりの象徴である。

また、この表現は、自然の変化と人々の生活の変化を象徴している。春が訪れると、人々の心情も春の景色に敏感に反応し、新しい希望と期待が芽生える。これは、自然の節候が、生活の流れを象徴している。

以上のように、春の詩である「春到」は、自然の変化と生活の流れを象徴しており、人々の心情を象徴している。